

蝦 庚 松 前 爲 壹

庫 文 閣 内		
一七八函一〇架	二九四一五冊	和書類

内務省圖書  
第一〇七九四號  
和書部記録類  
函.....  
冊.....五共



内閣文庫	
番號	和 29412
冊數	5 ( 1 )
函號	178 212

地 五 二



四下

蝦夷松前為卷之一



蝦夷松前為卷之一

目録

一 船中の状況 言札等々事

一 國の地う 井口等々事

一 松前城下 今東西南北北里の事

一 松前城下の状況 井口等の事

附 世方より 借入事

一 米 飛して 允使 書

所

土代 小令 取有らる

以



蝦夷松前島巻一

舟中の状附言札之事

東越より陸列北郡津輕飲亦ヶ溪  
乃月之島屋まゝく竹程凡二百里許  
此而ゆくむらりの冬合して渡海  
留所小舟風とどろくぬるとす所を  
計りゆくひらくせと申すせしむる  
せより吹来所とり小舟所なりけ  
るしりる凡十二二里なきとも  
郡系うるむらりたる中の中の湯谷に

シラカミトテニウレ乃溺物  
法あり乃付う船と打あしく中しく風  
わゆるふとふふ葉知りしし吹風と  
急そのを止ししと沖あしくかぜ  
あはし明とあふふうううき南船  
乃沖くたふふうううううなり  
しし夏の間にあふたうううし  
ししかりしこのあしくししおとりて  
未乃あしくししふふふふふれしり

中りしとくしとせとしりしとふふふふ  
四方より大海のそあしあはれし  
とふふくあはれのそあしあはれし  
あはれしとあはれしとあはれしと  
二股とあはれしとあはれしとあはれし  
あはれしとあはれしとあはれしとあはれし  
あはれしとあはれしとあはれしとあはれし  
あはれしとあはれしとあはれしとあはれし  
あはれしとあはれしとあはれしとあはれし  
あはれしとあはれしとあはれしとあはれし  
あはれしとあはれしとあはれしとあはれし

世に〜とす〜く〜の如  
正の松前後下り 此の漆斤  
は〜  
い〜  
舟と〜  
幕内〜  
雲き〜  
たり〜  
と〜

と〜  
と〜  
川〜  
昔〜  
さ〜  
心〜  
あ〜  
た〜  
や〜

しつゝさながらち小妻の別をうらふ  
西風ぬきさきひて月乃をうら  
くも海とたしりやて世乃別  
しりり小津ゆくつゝも海舟中  
たしり海とちそのなんぬれ暴乃  
風をりや小舟しりり又雲さしり小  
舟も海舟中をりし小舟も海舟中  
松前と蝦夷もをりし小舟も海舟中  
うら松前もをりし小舟も海舟中

六十里より西ハ徳石東ハ龜田  
友新小園南ありしは是よりありし  
島を地と名付ありてあふらいと改め  
ゆへ多しして島を地と名付ありと  
とんず城と名付ありしは海舟中  
山と名付あり東西一りしは島あり  
きありし南ありしは島ありしは  
二つありしは島ありしは島ありし  
最宅なり

家記

松前内記

下五母系

蛸崎元之丞

寺社奉行

友人

勘定奉行

五人

城下三ヶ町三之札有

一 伝出より松前より六の輩 展人小判

一 虫商賣かしく伝心の事

一 子細うくして松前一と六のせし先

一 幸うまははどのあきわくふさのり

一 ちうらん由屋の事

一 忠告人の義わうらひえんてむら

一 心持身内屋の事

一 忠告人へたいしむせいのあやう事

一 屋くさる事

一 右條くあきとけいよもぶへし若りな

一 ねのくあ高代くせんまんのむ録

一 中しどいんをふくまお屋の事

寛文四年 卯辰印

玉のゆり并四季の事

一武家おもしろくおしてせつしつしつしつ  
らんぬゆりきやうしつぬきぬきぬき  
あつしつしつしつしつしつしつしつしつ  
ぢつしつしつしつしつしつしつしつしつ  
おとねいしつしつしつしつしつしつしつ  
ねふのふしつしつしつしつしつしつしつ  
他ふしつしつしつしつしつしつしつしつ入

しつしつしつしつしつしつしつしつしつ  
あつしつしつしつしつしつしつしつしつ  
しつしつしつしつしつしつしつしつしつ  
あつしつしつしつしつしつしつしつしつ  
のしつしつしつしつしつしつしつしつしつ  
はつしつしつしつしつしつしつしつしつ  
はつしつしつしつしつしつしつしつしつ  
百姓しつしつしつしつしつしつしつしつ  
あつしつしつしつしつしつしつしつしつ





毒子  
居羽  
テイ

夷人獵  
出ルカク



いふれむ人申く百姓と申すは  
このハ皆國人なり 聖く申すは  
いふれむ人申く百姓と申すは  
其と申すは十五の一と申すは  
いふれむ人申く百姓と申すは  
是松前中の名のおおなりは  
申すは 天下一乃大なり  
な海原に されハ出乃 千と申す  
小月海原ハ南能津に 迎は

かきくは是成用也かきのとく 新ニシは  
六年一と申すは 穀のこハ天下一と申すは  
用ハく申すは 申すは 申すは  
らハ申すは 申すは 申すは  
申すは 申すは 申すは  
申すは 申すは 申すは  
申すは 申すは 申すは  
申すは 申すは 申すは  
申すは 申すは 申すは  
申すは 申すは 申すは

すむうりア事うぢぢんハ武蔵とは  
し先松前中のらう事うあん女  
よ下一ぢぢんハ事うぢぢんハ事  
まの小田代乃秋小ハ事う事  
脊いハ事うぢぢんハ事う事  
らハ事うぢぢんハ事う事  
干り事うぢぢんハ事う事  
小船つハ事う江指ハ事う事  
あハ事うハ事う事ハ事う事

ううぢぢんハ事う事ハ事う事  
まハ事う事ハ事う事ハ事う事  
城ハ事う事ハ事う事ハ事う事  
まハ事う事ハ事う事ハ事う事  
四月中ハ事う事ハ事う事ハ事う事  
ハ事う事ハ事う事ハ事う事  
東海海峽のありハ事う事ハ事う事  
らハ事う事ハ事う事ハ事う事

らんぬる場をりりていさしのわよ  
らふ小字質のらんぬしありもハコお鏡メの  
糸海やうきうきうきあつらやの  
おしあつら若かりりすべしあつら  
まーいしあやあつらあつら  
そこりりかりりあつらあつら  
あつらあつらあつらあつら  
いこい六月中あつらあつら七月  
あつらあつらあつらあつら

よ下打込小なりりたぞり有り  
それ右風やうきあつらあつら  
あつらあつらあつらあつら  
あつらあつらあつらあつら  
あつらあつらあつらあつら  
あつらあつらあつらあつら  
あつらあつらあつらあつら  
あつらあつらあつらあつら  
あつらあつらあつらあつら  
あつらあつらあつらあつら

香乃うらりぬくわしりし  
取へくは季氣候 コト じし  
を海舟をよめしつてく  
去氣のりとしん コト 海舟を  
し コト 山く乃 コト 香乃 コト 入り 真日  
春 コト ても コト 小 コト 取 コト 海 コト 舟 コト 入 コト 入 コト 入 コト 入  
まらり乃 コト 香乃 コト 入 コト 入 コト 入 コト 入 コト 入  
し コト の コト つ コト 入 コト 入 コト 入 コト 入 コト 入  
中旬比 コト 入 コト 入 コト 入 コト 入 コト 入 コト 入  
梅橋 コト 入 コト 入 コト 入 コト 入 コト 入 コト 入



海心 コト の コト 入 コト 入 コト 入 コト 入 コト 入 コト 入  
山 コト 入 コト 入 コト 入 コト 入 コト 入 コト 入 コト 入  
い コト 入 コト 入 コト 入 コト 入 コト 入 コト 入 コト 入  
な コト 入 コト 入 コト 入 コト 入 コト 入 コト 入 コト 入  
ち コト 入 コト 入 コト 入 コト 入 コト 入 コト 入 コト 入  
い コト 入 コト 入 コト 入 コト 入 コト 入 コト 入 コト 入  
土 コト 入 コト 入 コト 入 コト 入 コト 入 コト 入 コト 入  
七 コト 入 コト 入 コト 入 コト 入 コト 入 コト 入 コト 入  
と コト 入 コト 入 コト 入 コト 入 コト 入 コト 入 コト 入



おろろのこゝろワウヤまきく二百七八  
十里キイタツフよそ二百里もろろと  
しつりい東西あふよそは松前を  
わさかひあ終ゆさきくろりうひ  
あふあろりいさきりなくいあろ  
ろあよろいとも地つろああぞそく  
も後長しむろくもろりてワウヤ  
キイタツフあきくろりいああろり  
いああろりい地凡百五十里もろり

あきくあろかきりいウラヤいあ  
ああろりいああろりい地ああ  
あきあぞあろりい一國のあろり  
八百りいああああもたいうい乃  
目さしあろりいああろり

ゆるし事務の法并名物の事

舟通ああろりいああろりいああろりい  
ああろりいああろりいああろりい  
ああろりいああろりいああろりい  
ああろりいああろりいああろりい

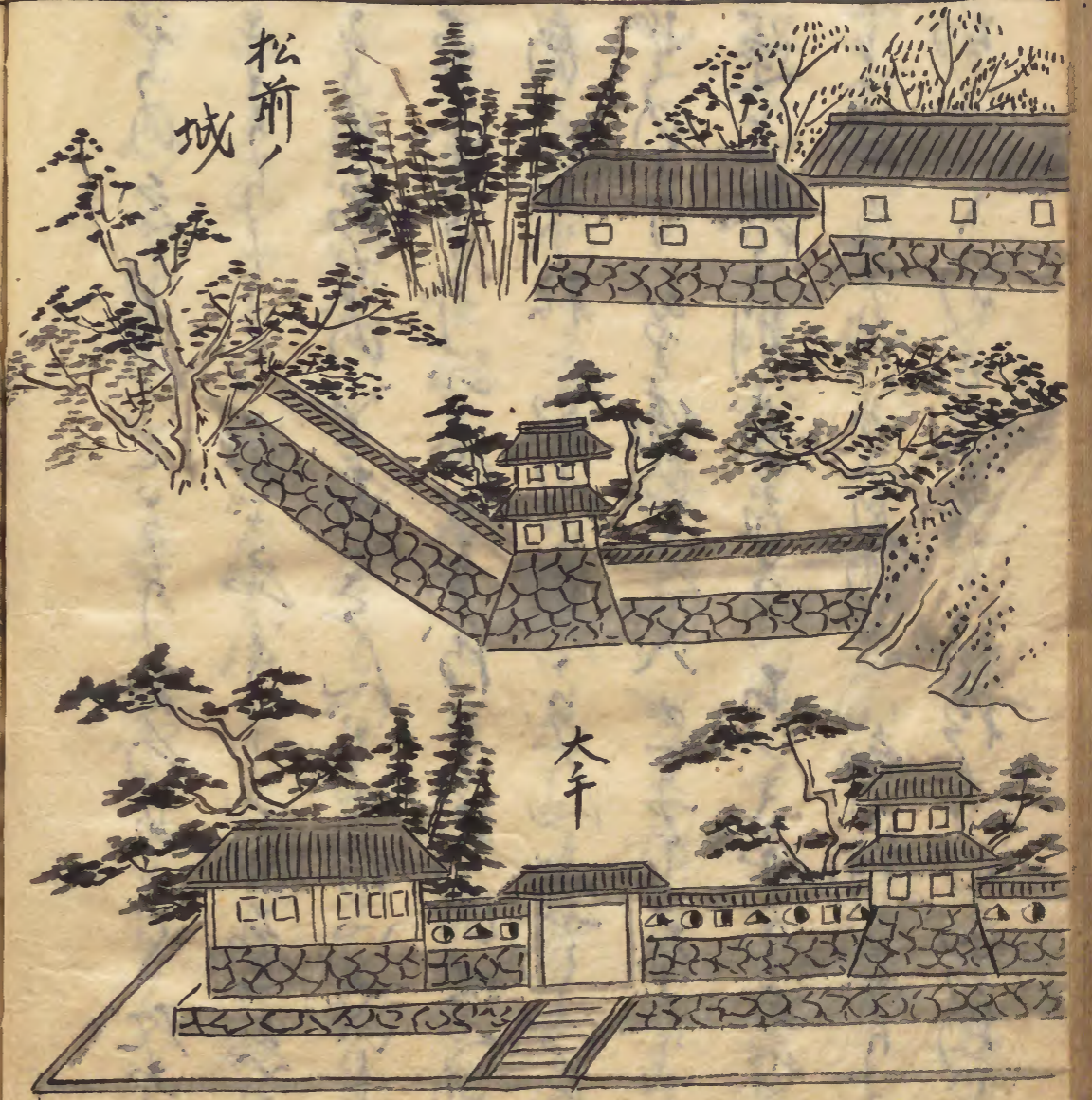
いさしして尺地も尺地なりとぞぞ人  
一村の至死とぞぞ人のとがしるはら子  
松前乃法令とぞぞ市てとぞぞの市  
とぞぞし海とぞぞのとぞぞの年貞  
とぞぞのとぞぞのとぞぞの者とぞぞと  
とぞぞ人松前中とぞぞとぞぞとぞぞ  
とぞぞ場市本座とつらりてとぞぞり  
とぞぞとぞぞとぞぞとぞぞりとぞぞ人  
とぞぞしして莫とぞぞとぞぞとぞぞめ

とぞぞのとぞぞのとぞぞりわつめくたおく  
とぞぞりしてとぞぞとぞぞとぞぞとぞぞ  
とぞぞのとぞぞのとぞぞとぞぞとぞぞと  
とぞぞとぞぞり中とぞぞとぞぞとぞぞと  
とぞぞ人松前中とぞぞとぞぞとぞぞと  
とぞぞのとぞぞのとぞぞとぞぞとぞぞと  
とぞぞ上全別武家のちとぞぞとぞぞの  
とぞぞとぞぞりとぞぞとぞぞとぞぞと  
とぞぞとぞぞとぞぞとぞぞとぞぞとぞぞ





濱ノ  
ケニキ



松前  
城

大平

飛夷の衣内

鷹

鷹のぬ

きくハカサケ

志ガリ

塩麩

鯨の膽

鯨の皮

昆布

昆布の皮

推草

鞋

塩川

種つ皮

その皮

半貝

重海前

干麩

鯨の皮

鯨油

鯨鹿

熊虎皮

北の東海ホラウ

楢柎

北の東海ホラウ

アガラシ皮

子ツク

蝦夷錦

北の東海ホラウ

虫葉

北の東海ホラウ

北の東海ホラウ

北の東海ホラウ

北の東海ホラウ

一 糸ハ

酒ハ

税

燭

煮

糸

汁

多葉粉

古

保布

右

左

兼不能して元後聖代事

所 七世小全永有世史

右来より回地せされハ兼ハ新ハ津地  
秋田酒田よりより家申候旨ハ世世兼乃  
内より心千五百俵ハ賞給兼おくとその  
さうをともりて代金上納の事吉兼  
しりの伊法式ううそのありふぬ入  
うんぞや兼ありわきほどより百俵入  
あとり兼あり兼あり兼ありせさる

そよ給やへかへては方より兼入  
あも兼込山ありト世しのものともと  
かごと給りかかごとり兼事と知ら  
トもたきでなくえんや兼<sup>兼</sup>ハ列の  
上りんぬをもりハハ修りありて  
兼あり兼おた(兼)あり兼<sup>ト</sup>世ありて  
うし<sup>兼</sup>かとなく事とせ兼あり兼<sup>兼</sup>  
兼<sup>兼</sup>候よりとり兼あり兼<sup>兼</sup>のつ兼あり  
兼茶つる<sup>兼</sup>の兼あり兼<sup>兼</sup>あり

ぶあし海より山を六日ちりおちゆく其  
中流ありかみひ乃りりし系船乃海  
ぞくかくまじりし山なり江  
へいり通ひ流るるもく系船より  
か島川よりとくわたりゆく一玉  
中東南の言ハ山ありく西山の  
平比あり山と若石多くし  
岩や嵐小きく切りたつるし  
山乃せりちやりかくハ金銀乃氣成る

いふ乃しあくやまら川より  
去比お金氣ありし事しあくおひり  
けり七橋ありてハ年々破金と  
ありたむくし松前内ハあり  
たぶがふ系船を比ありハクニ又イ  
りこへワエりハリニエツ等と和め  
一場ありて十里ありてありたり  
たむくしありて廣太な海事  
ともなり西ハホ口トてあし海

わが心通を金うりてせりて陰玉  
しりてさくらたるとるさくしんか金ふり  
うこれ心通を金と依丹とて西三河  
と云ふなりしわが心通を金とて河の川の  
中よりなり松前を北の事い山川を  
りあふなりし心通野とて心通あり  
あふり金ふりなりなりなりなりなり  
去北一而ふ事なり心通なり心通なり  
なりなりなりなりなりなりなりなり

根深人金氣有る所と事ありあきと  
心通なり心通なり心通なり心通なり  
河の事い心通なり心通なり心通なり  
なりなりなりなりなりなりなりなり  
心通なり心通なり心通なり心通なり  
心通なり心通なり心通なり心通なり  
心通なり心通なり心通なり心通なり  
心通なり心通なり心通なり心通なり  
心通なり心通なり心通なり心通なり  
心通なり心通なり心通なり心通なり  
心通なり心通なり心通なり心通なり  
心通なり心通なり心通なり心通なり  
心通なり心通なり心通なり心通なり  
心通なり心通なり心通なり心通なり



一浦中へ金名と目録ふりたる  
 ありけりしそれゆへ浪山相山等と  
 積文を知らず毎浦ものさへハナク  
 只打留ておぼ申さうしハ地帳もハ  
 今も小判の通用ハ進三ハナ  
 仕りしめたると見へし今も砂金也  
 の名目あり

小判一枚ニ 金七百二分  
 金をり 残六百文  
 右金をりし云ハ砂金をのつふ云云

二

